

影

何も残さないひとだった

書くことはせず

話すことさえも稀

気づけば空ばかり

見つめている

じつと苔石のように

たたずんで

口をひらいたかと思ったら

いい天気だね と独りごつ

おおきすぎる

沈黙が

最後まで好きには

なれなかったのに

あなたが去ったあとの

真っ白な虚空に

どうしてか今も

呼びかけてしまうのです

真名井大介